

アユの魚群分布の特徴

酒井 明久

◆背景・目的

アユの資源水準を評価する目的で実施している魚群探知機による魚群数の観測(湖中アユ魚群分布調査)は、水深30mを基準とした一定のコースを設定しているため、年や時期によって魚群の分布に偏りがある場合には評価に影響を与える可能性がある。そこで、通常コースとそれ以外のコース上に出現する魚群数を比較した。

◆成果の内容・特徴

- ・湖底のなだらかな琵琶湖東岸の姉川～愛知川の水域において、4～7月に水深30m(通常コース)とそれより岸寄りの水深15mの両コースに出現する魚群数(小群換算値, 80頁参照)を比較した(図1)。
- ・両コース上の魚群数は、2007年4月、6月には30mコースに多かったが、同年5月には同程度、同年7月には15mコースに多く、毎月共通した傾向はみられなかった(図2)。
- ・2006年6月には、2007年の同月とは対照的に15mコースに多くの魚群が出現した(図2)。

◆成果の活用・留意点

アユの魚群分布は、年や時期によって一定の傾向を示さなかった。このことは、現状の一定コース上に出現した魚群数による資源評価が、実際の資源水準から乖離する場合もあり得ることを示す。

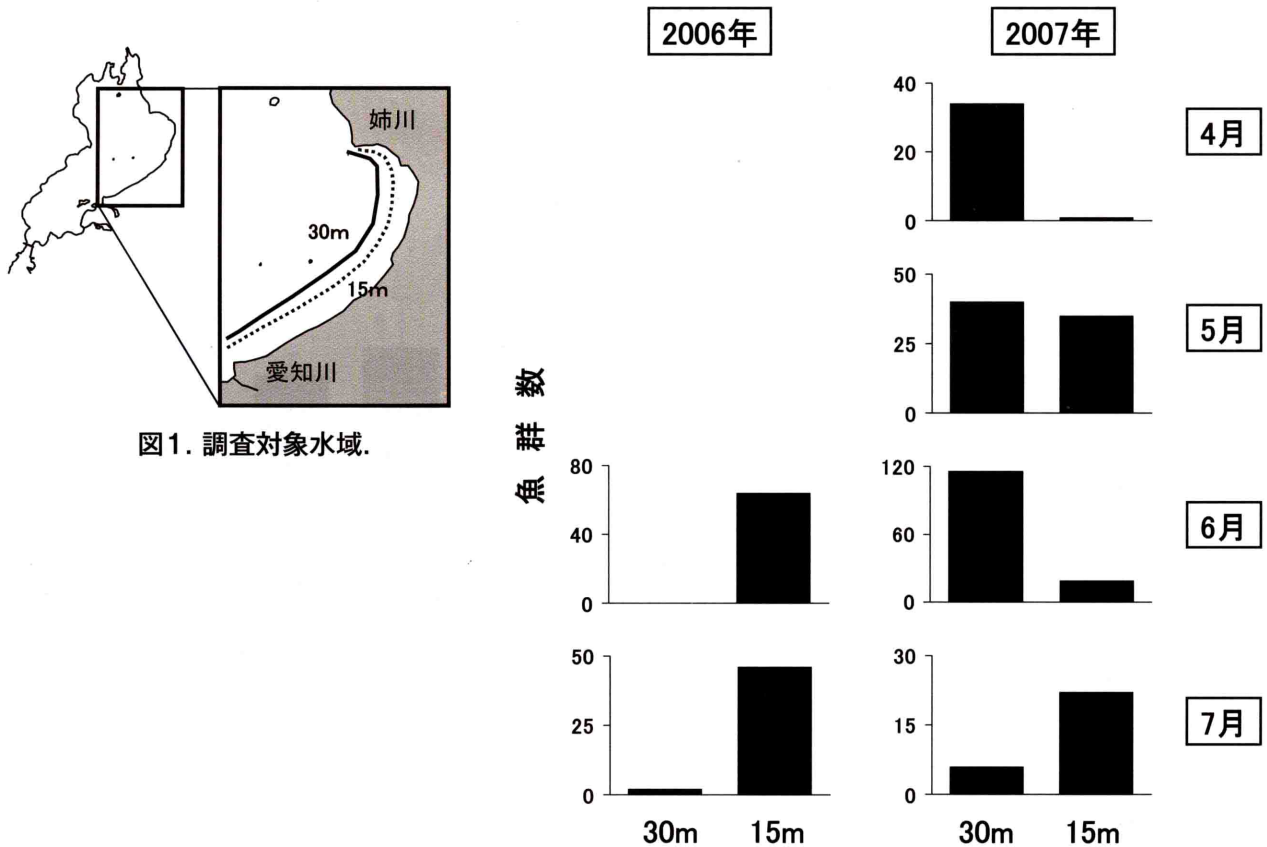


図2. 水深30mと15mにおける4～7月の魚群数の比較.